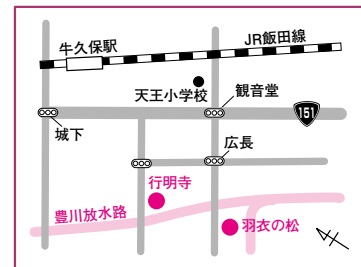




みつけた!



行明町に伝わる天女の羽衣の物語



行明町の豊川放水路分流堰管理所の敷地内に、「羽衣の松」と記された石碑の近くに1本のマツがあります。背後に豊川が流れる見晴らしのよい場所にあるマツには、天女にまつわる物語があるのをご存知でしょうか。

その昔、天女が豊川で水浴びをしていたとき、通り掛かった若者が、岸边のマツに掛けられた羽衣を持ち帰ってしまいました。天女は、羽衣を返してもらいたい一心から若者と結婚しました。その後二人は仲の良い夫婦となり、子どもも生まれました。ある日、天女は羽衣を見つけ天に帰ることになり、葉を食べると病気が治るといふ茶の実と人形を子どもに残しました。子どもは病氣もすることなく成長し、星野勘左衛門行明ゆきあきという名の立派な武士になったということです。

岸边のマツは何代も植え替えられましたが、マツの近くには、星野勘左衛門行明が建てたという行明寺が残っています。郷土に伝わる物語に思いをはせながら辺りを散策してみたいはいかがでしょうか。

